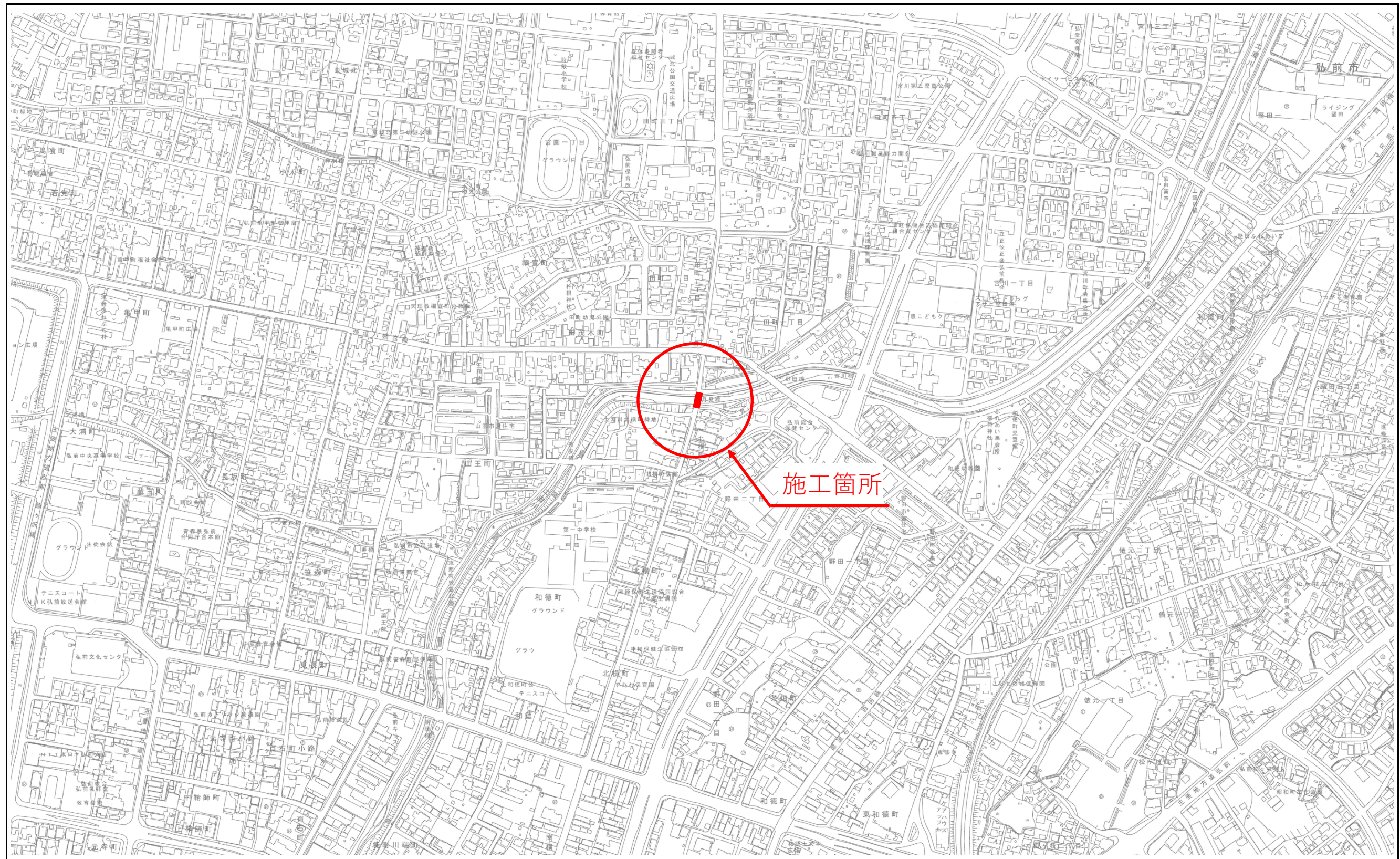
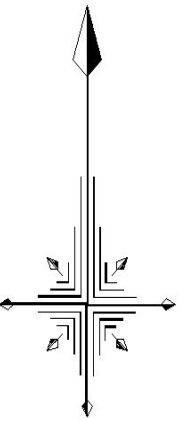


位置図

工事名：令和6年度 月見橋橋梁補修工事

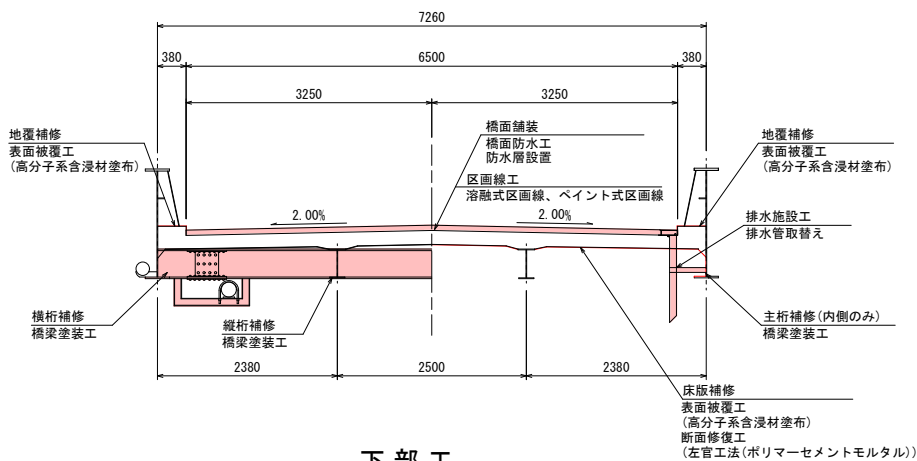
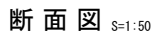
S = 1 : 5,000

弘前市

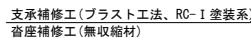


月見橋 補修一般図

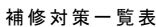
平面图 S=1:100



下部工 S=1:50



側面図 S=1:100



対 策 箇 所		対 策 工 法	
上 部 工	橋 面 舗 装	橋面防水工	防水層設置
		舗装打換工	舗装撤去、復旧
	主 桁・横 桁	区 画 線 工	溶融式区画線、ペイント式区画線
		橋梁塗装工	ブラスト工法、RC-Ⅰ塗装系
	床 版	断面修復工	左官工法(ポリマーセメントモルタル)
付 属 物 工		表面被覆工	高分子系含浸材
	地 覆	表面被覆工	高分子系含浸材
	伸縮装置	伸縮継手工	伸縮装置取替え
	排水装置	排水施設工	排水管取替え
	下 部 工	橋 台	断面修復工
表面被覆工			高分子系含浸材
支 承		支 承 補 修 工	ブラスト工法、RC-Ⅰ塗装系
谿 座		谿座補修工	無収縮材

橋 梁 諸 元

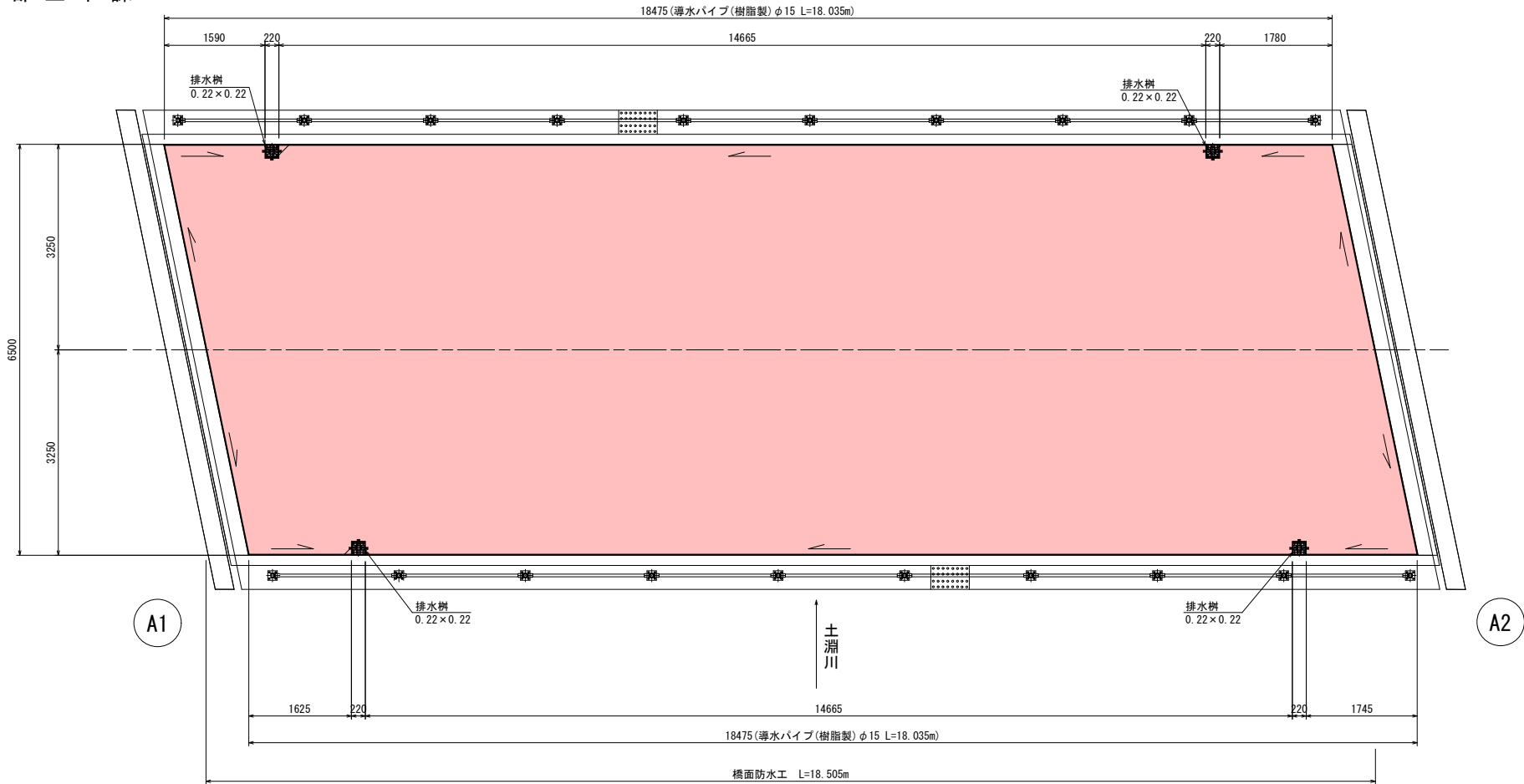
	橋 名	月見橋（つきみはし）
	路 線 名	市道 八幡宮線
	架 橋 条 件	土源川（管理者：青森県）
	竣 功 年	昭和42年2月11日 ※橋齢58年
	設計活荷重	2等橋（TL-14t）
	斜 角	78° 20' 1"
	橋 長	L=19.175m
	支 間 長	L=18.375m
	幅 員	全幅7.26m（有効幅員6.5m+地覆0.38m×2）
上部構造	上部工形式	単純鋼下路式1桁橋
	床 版 工	鉄筋コンクリート床版
	橋 面 舗 装	アスファルト舗装
	防 護 柵	乾落防止柵
	伸 縮 装 置	突合型ゴムジョイント
	支 承	A1：線支承、A2：線支承
下部構造	形式・躯体	重力式橋台
	基礎	直接基礎
	支持地盤	A1 - A2 -
適用基準		鋼道路橋設計方書（昭和39年）

※本図面は、既存資料及び現地測定を基に作成した図面である。

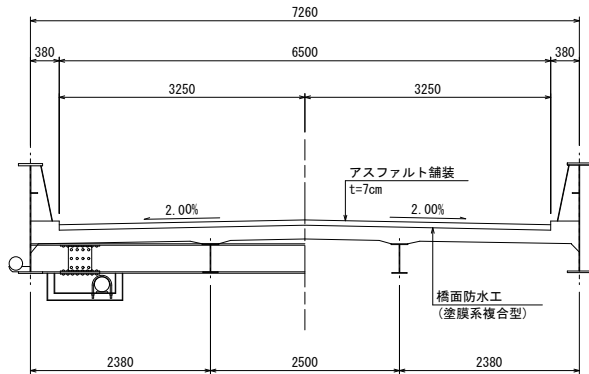
年 度	令 和 7 年 度
工 事 名	令和6年度 月見橋橋梁補修工事
路 線 名	市道 八幡宮線
施工箇所	弘前市大字 北横町外 地内
図面名称	橋面防水工図
縮 尺	図 示
図面番号	1 3 葉 2

月見橋 橋面防水工図

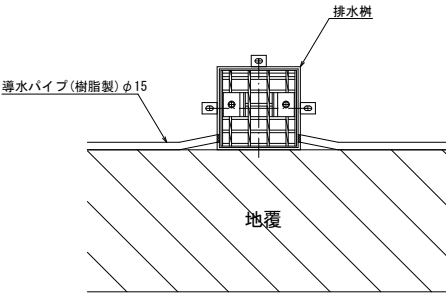
平面図（橋面） S=1：50



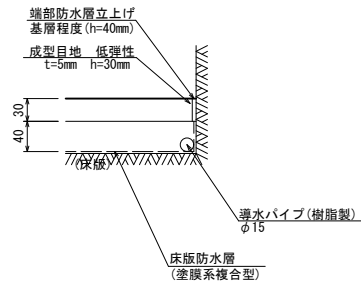
断面図 S=1：50



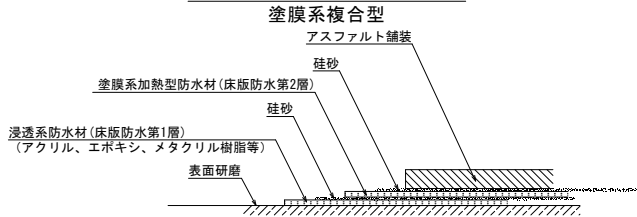
平面図 S=1：10



防水層端部処理詳細図 S=1：5



橋面防水工詳細図 S=1：10

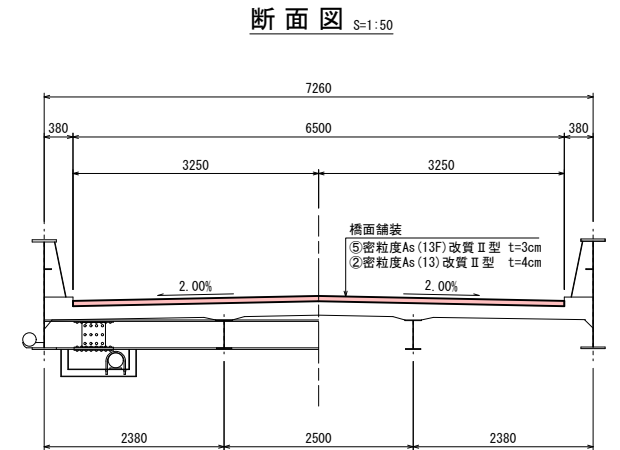
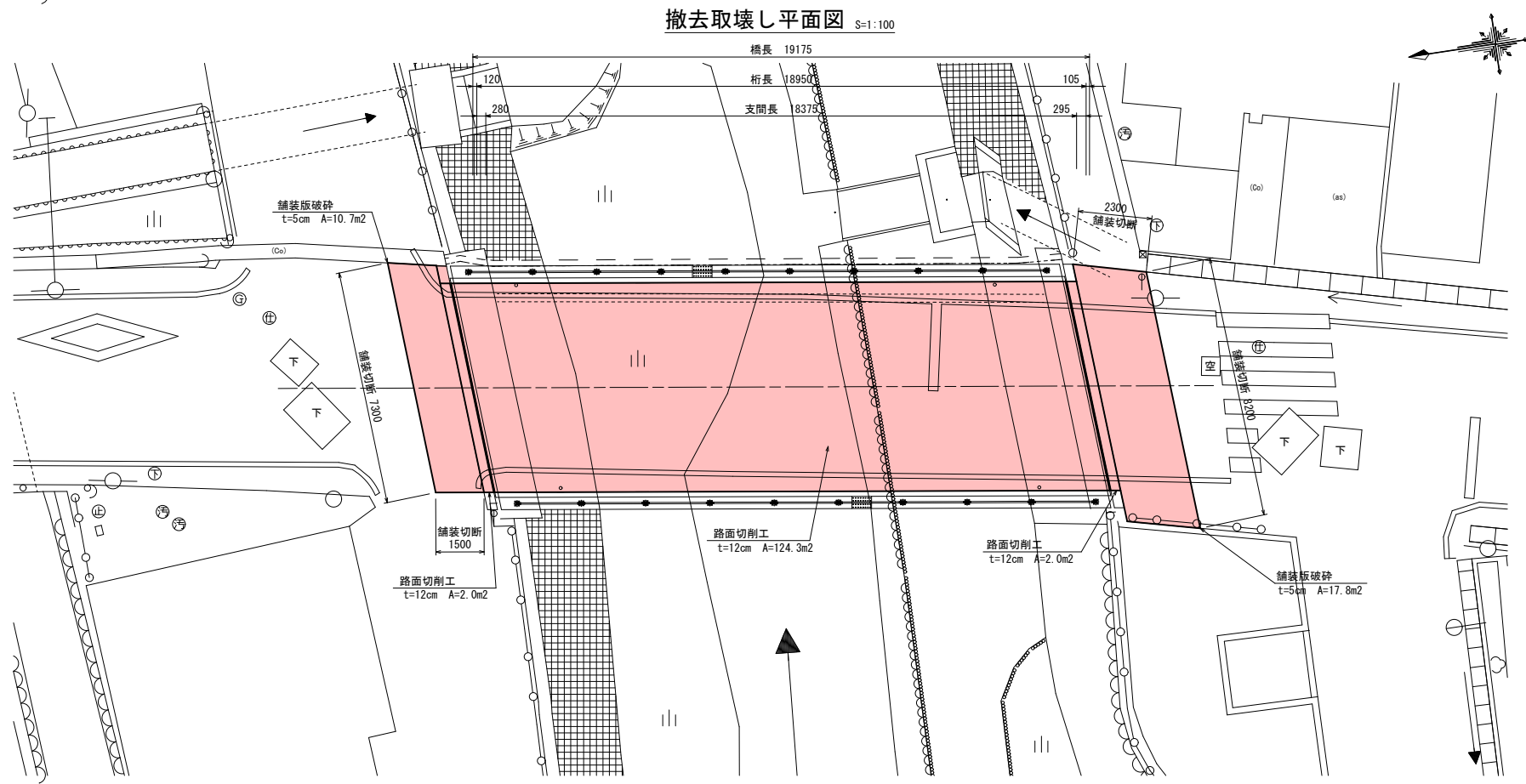
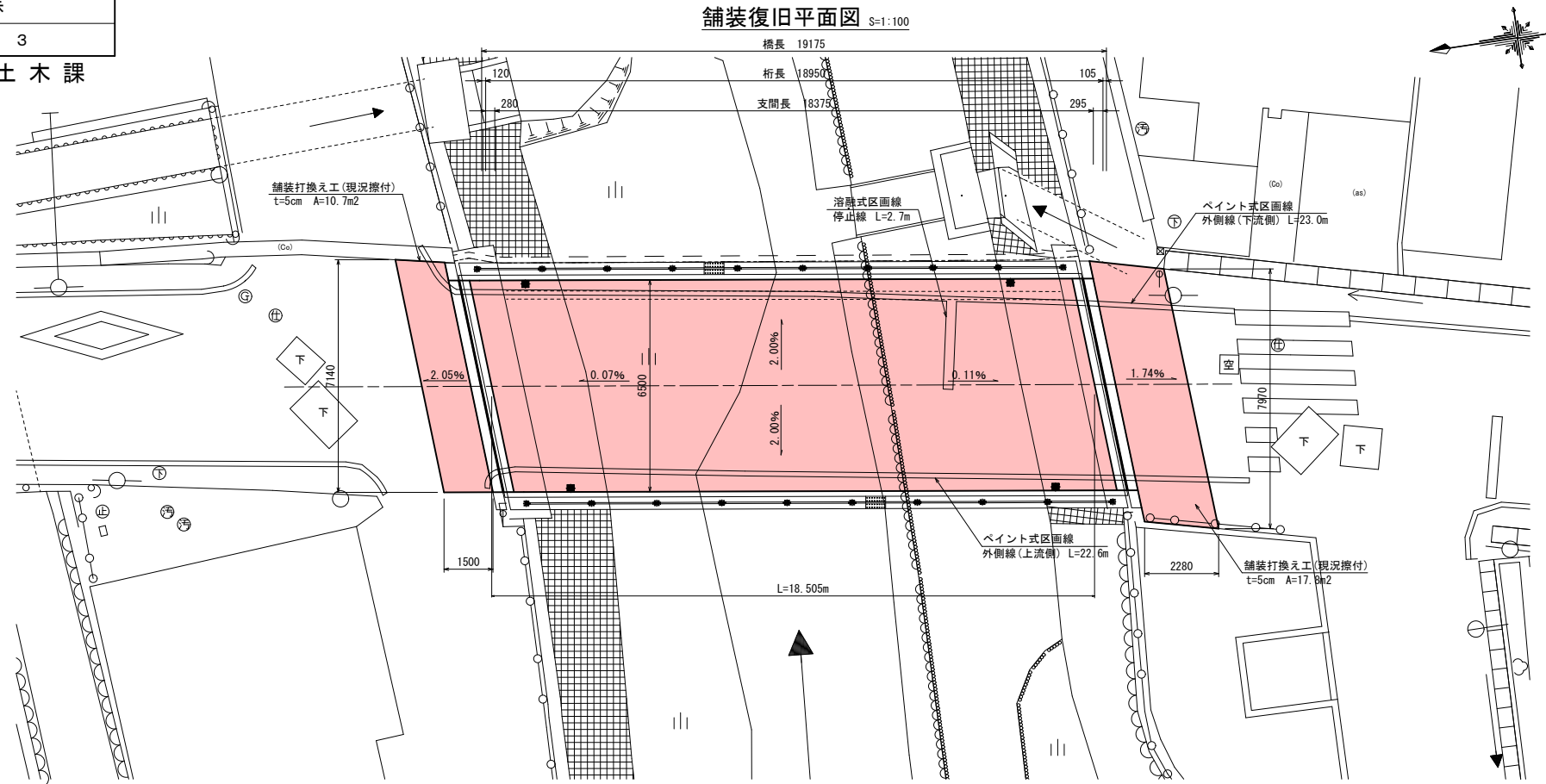


- <特記事項>
- ※1 図中、詳細寸法等は現地検測のうえ決定すること。
 - ※2 導水管端部は排水装置に接続すること。
 - ※3 流水方向については、路面切削後、高さの現地検測を行い再確認を行うこと。
 - ※4 流水方向が逆勾配になる箇所は高さ調整を行い、排水ますへの流下を確保すること。
 - ※5 現況舗装切削後、劣化部が確認される場合には補修を行うこと。

年 度	令 和 7 年 度
工 事 名	令和6年度 月見橋橋梁補修工事
路 線 名	市道 八幡宮線
施工箇所	弘前市大字 北横町外 地内
図面名称	舗装打換え工図
縮 尺	図 示
図面番号	1 3 葉 3

弘 前 市 建 設 部 土 木 課

月見橋 舗装打換え工図



道路舗装構成 S=1:10

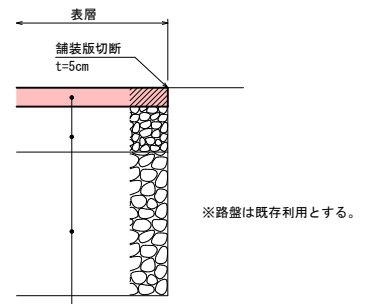
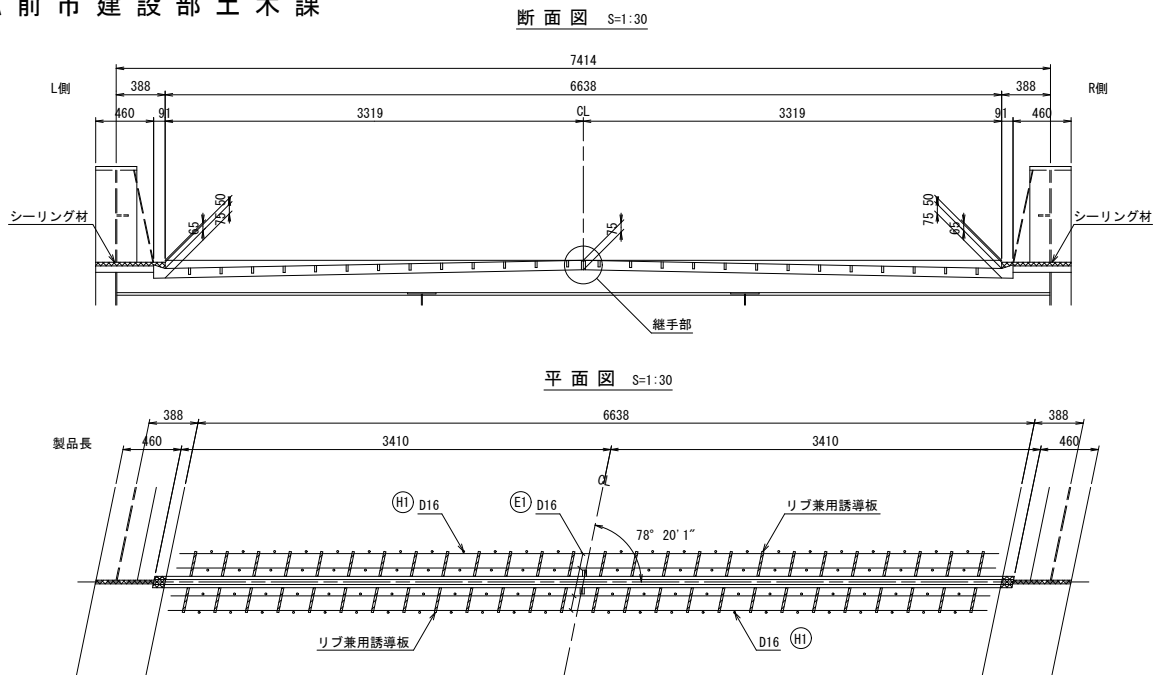


表 層	: ⑤再生密粒度As (13F) t= 5cm
上層路盤	: 切込砕石 (C-20) t=10cm (既存利用)
下層路盤	: 再生砕石 (RC-40) t=38cm (既存利用)

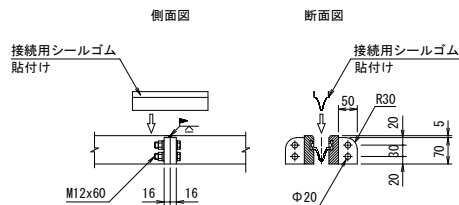
- <特記事項>
- ※1 詳細寸法、現況勾配等は現地再検測の上決定すること。
 - ※2 現況の舗装厚については、試掘等で確認すること。
 - ※3 区画線、路面標示は現況と同位置とすること。

年 度	令和 7 年 度
工 事 名	令和6年度 月見橋橋梁補修工事
路 線 名	市道 八幡宮線
施工箇所	弘前市大字 北横町外 地内
図面名称	伸縮継手工図
縮 尺	図 示
図面番号	1 3 葉 4

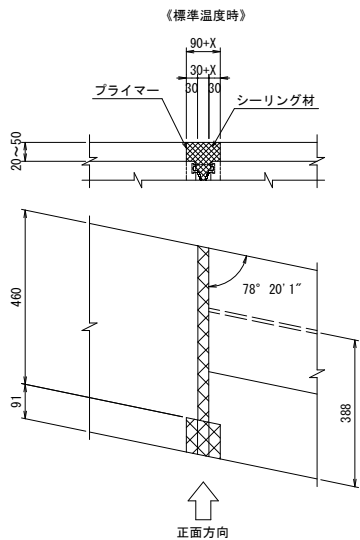
弘前市建設部土木課



継手部詳細図 S=1:10

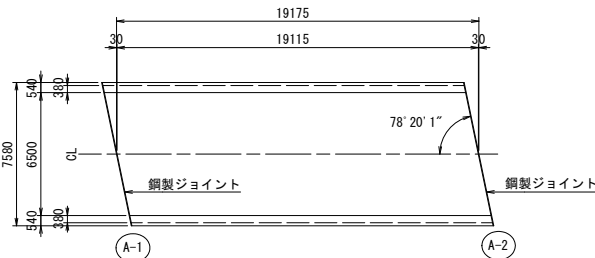


地覆部 詳細図 S=1:10

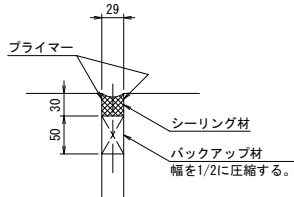


注:〈 〉内寸法は橋軸方向を示す。

伸縮装置配置図 S=1:200



シーリング材 断面図 S=1:5

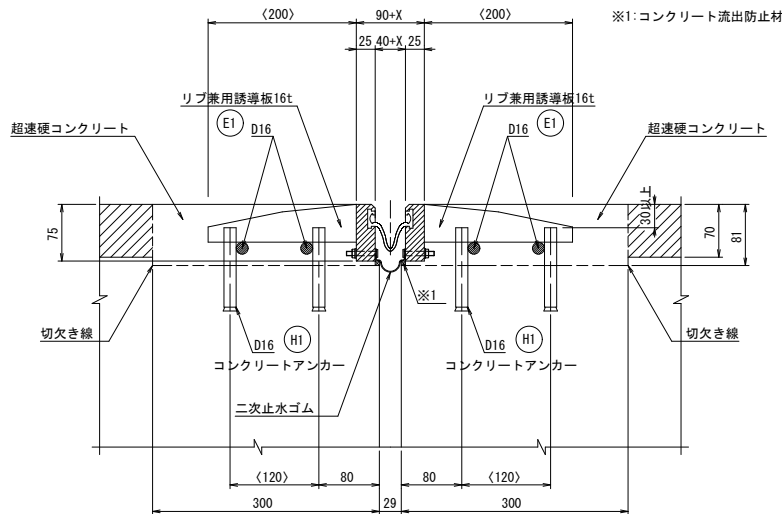


地覆部材料表 (全数量)

名称	断面	単位数量	長さ	数量	数量	適用
シーリング材	((20t+50t)÷2)x90x1.2	3790mL	0.091m	4	1376mL	地覆部
	30tx29x1.2	1044mL	0.460m	4	1921mL	地覆部
係数1.2は作業ロスに対する割増				TOTAL	----	
					3297mL	
					≒3.30L	
プライマー	((20t+50t)÷2)x2面	0.07m2	0.091m	4	0.03m2	地覆部
	30tx2面	0.06m2	0.460m	4	0.11m2	地覆部
				TOTAL	----	
					0.14m2	
バックアップ材	58x50t	2.9L	0.460m	4	5.336L	地覆部
幅を1/2に圧縮し挿入				TOTAL	----	
					≒5.34L	—
※現場手配とする。						

月見橋 伸縮継手工図

取付断面図 S=1:5
伸縮量60mmタイプ



伸縮裝置材料表

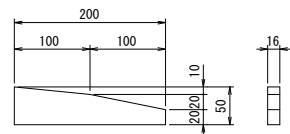
型式	単尺	本数	長さ	適用	重量
鋼製ジョイント	3410	4	13640	車道部	125kg(1本当り)
TOTAL			13m640	—	—
リブ兼用誘導板	200x50x16	104枚	1箇所	52枚	車道部重量に含む

補強鉄筋材料表

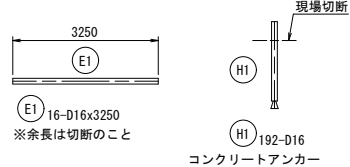
適用	記号	断面	単尺	単重	1本当重量	員数	重量	材質
E1	Φ	D16	3250	1.560	5.070	16	81.1	SD345
H1	〃	〃	-	-	-	192	-	コンクリートアンカー
TOTAL ---							81	kg

※現場手配とする。

リブ兼用誘導板 詳細図



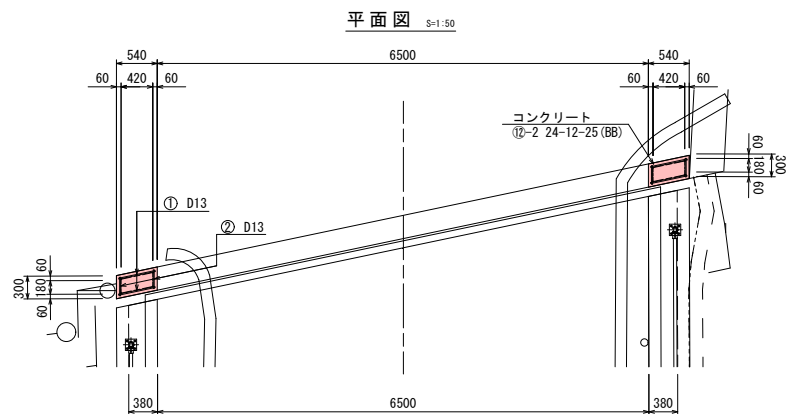
補強鉄筋加工図



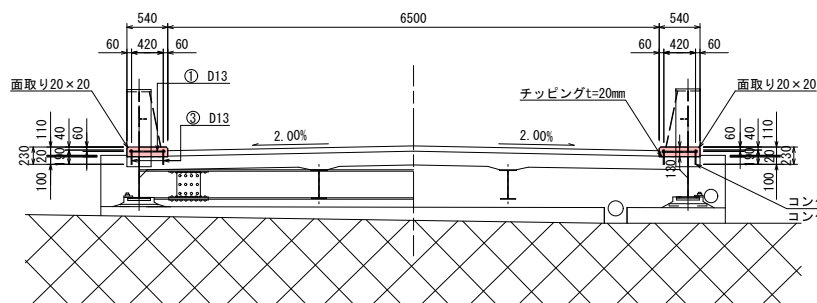
設計条件

橋梁条件	
温度範囲	-15℃～+35℃
標準温度	+10℃
橋長	19.175m
伸縮桁長	19.115m
伸縮移動量	
温度変化	9.6mm
常時移動量	19.6mm
伸縮装置許容量	
許容伸縮量	60mm
適応遊間	40mm

胸壁嵩上げ工詳細図



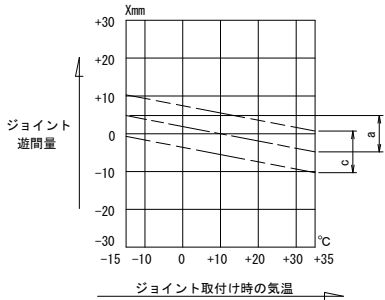
正面图 S=1:50



鉄筋重量表

種 別	径	長 さ (mm)	本 数	単位重量 (kg/m)	1本当たり重量 (kg)	重 量 (kg)	摘 要
①	D13	460	8	0.995	0.458	3.7	2本×4箇所
②	D13	220	8	0.995	0.219	1.8	2本×4箇所
③	D13	190	16	0.995	0.189	3.0	4本×4箇所
				D13	合計 (kg)	8.5 ± 9	SD345

ジョイント遊間設置表



ジョイント温度設定書 解説

1:表は図中のXの値を示す。

2:a=温度変化

3:c=(適応区間値-区間値) または、
c=(伸縮装置伸縮量-常時伸縮量)

4:標準温度+10℃(H29追示Ⅰ共通編8.10)

5:1℃当りの伸縮量=温度変化/全温度

6:現場設置時は現地の温度(気温)を確認し、適切な温度値を決定する事。

7:Xは標準温度時X=0mmとする。

8:Xの算出は次式による

X=(標準温度-気温)/x(温度変化/全温度)

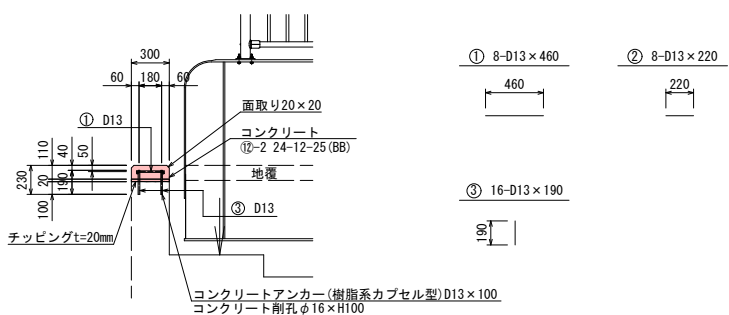
注1:常時移動量には10mmの余裕量を含む。

注2:伸縮装置は遊間を跨ぐものとする。

特記事項

- 1: 詳細寸法等は現地検測後決定とする。
- 2: 補強鉄筋は現場手配とする。
- 3: 地覆部シーリング材一式は現場手配とする。

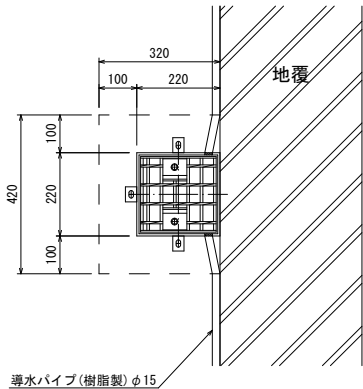
鉄筋加工図 S=1:30



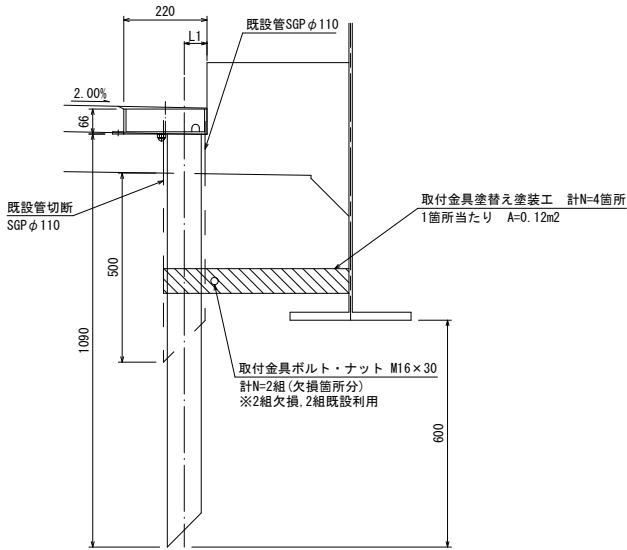
年 度	令 和 7 年 度
工 事 名	令和6年度 月見橋橋梁補修工事
路 線 名	市道 八幡宮線
施工箇所	弘前市大字 北横町外 地内
図面名称	排水施設工図
縮 尺	図 示
図面番号	1 3 葉 5

弘前市建設部土木課

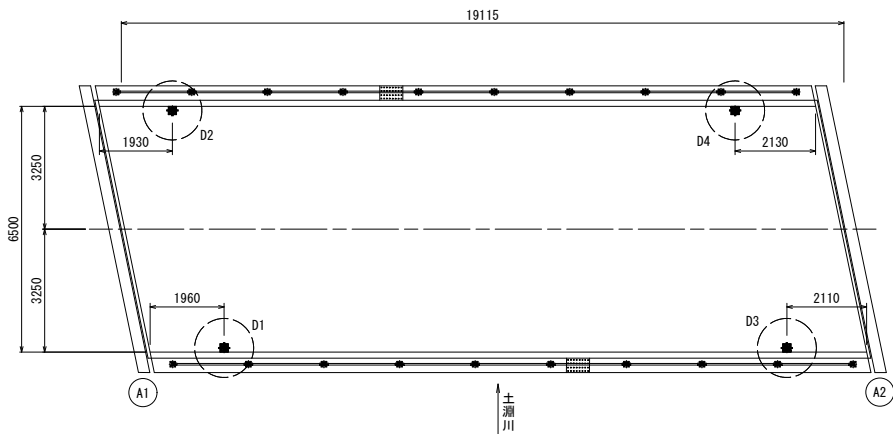
平面図 S=1:10



側面図 S=1:10



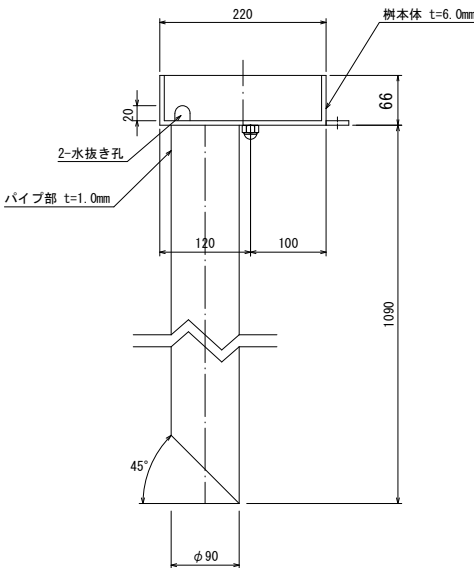
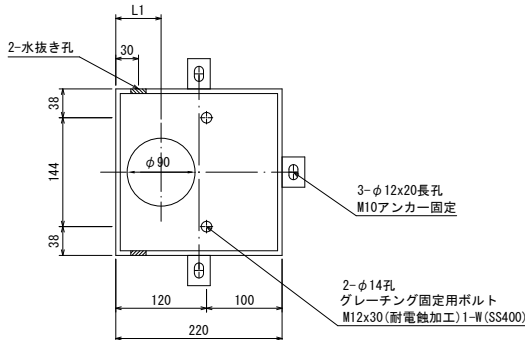
配置図 S=1:100



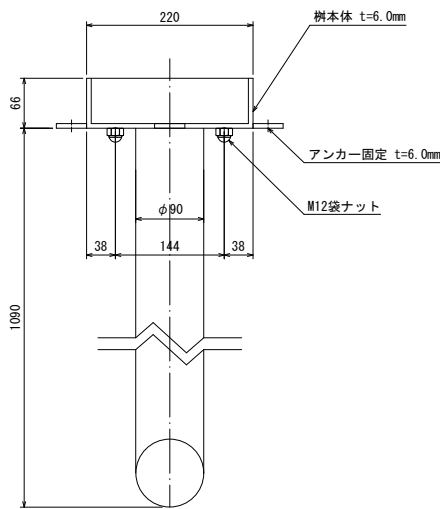
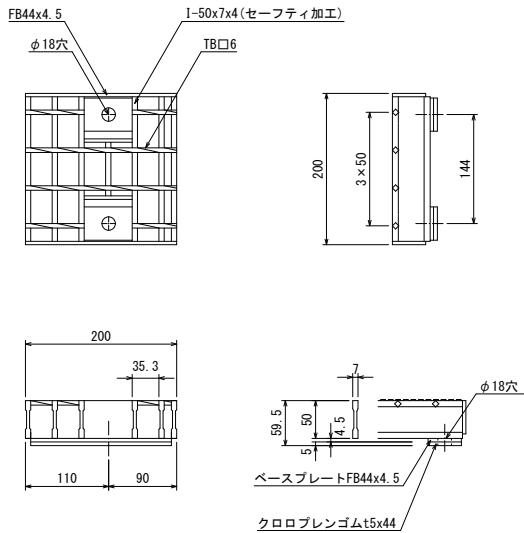
月見橋 排水施設工図

排水樹詳細図 S=1:5

排水樹詳細図



グレーチング詳細図



排水樹 数量表

名 称	補修箇所	L1	個数
D1	A1上流	129	1
D2	A1下流	60	1
D3	A2上流	103	1
D4	A2下流	87	1

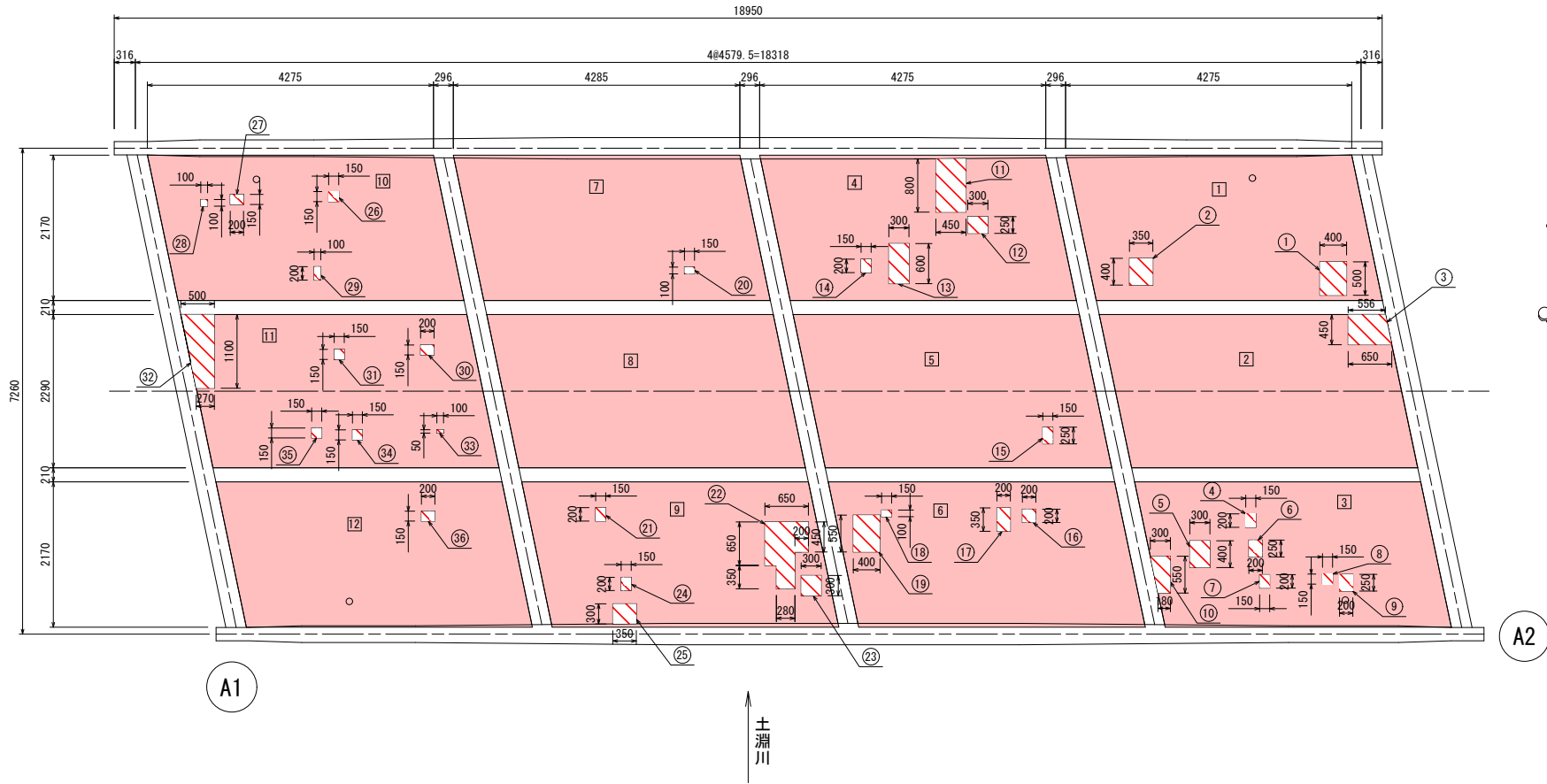
- 注) 1. 特記なき材質はすべてSUS304とする。
2. 排水装置はTSステンレス排水装置に準ずる。
3. t=2.0未満のステンレス鋼材溶接部内外面に対し耐食性向上の措置を講じる。
4. 現地調査にて寸法確定後製作する。

年 度	令 和 7 年 度
工 事 名	令和6年度 月見橋橋梁補修工事
路 線 名	市道 八幡宮線
施工箇所	弘前市大字 北横町外 地内
図面名称	床版補修工図
縮 尺	図 示
図面番号	1 3 葉 6

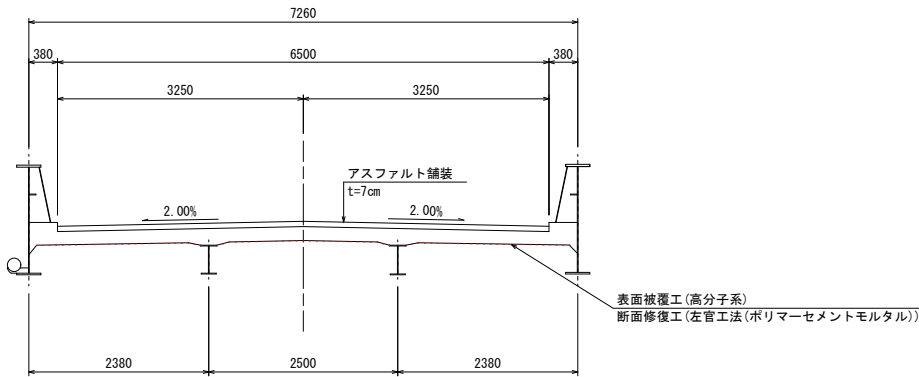
月見橋 床版補修工図

弘 前 市 建 設 部 土 木 課

平面図(床版透過図) S=1:50



断面図 S=1:50



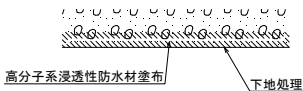
断面修復工 数量表

番 号	厚 さ	面 積
①	0.05	0.20
②	0.05	0.14
③	0.05	0.27
④	0.05	0.03
⑤	0.05	0.12
⑥	0.05	0.05
⑦	0.05	0.03
⑧	0.05	0.02
⑨	0.05	0.05
⑩	0.05	0.13
⑪	0.05	0.36
⑫	0.05	0.08
⑬	0.05	0.18
⑭	0.05	0.03
⑮	0.05	0.04
⑯	0.05	0.04
⑰	0.05	0.07
⑱	0.05	0.02
⑲	0.05	0.22
⑳	0.05	0.02
㉑	0.05	0.03
㉒	0.05	0.48
㉓	0.05	0.09
㉔	0.05	0.03
㉕	0.05	0.11
㉖	0.05	0.02
㉗	0.05	0.03
㉘	0.05	0.01
㉙	0.05	0.02
㉚	0.05	0.03
㉛	0.05	0.02
㉜	0.05	0.42
㉝	0.05	0.01
㉞	0.05	0.02
㉟	0.05	0.02
㊱	0.05	0.03
Σ A=3.47m2		

表面被覆工 数量表

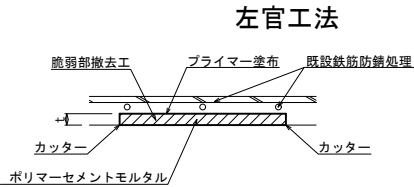
番 号	面 積
①	9.28-(0.20+0.14) =8.94m2
②	9.79-0.27 =9.52m2
③	9.28-(0.03+0.12+0.05+0.03+0.02+0.05+0.13) =8.85m2
④	9.28-(0.36+0.08+0.18+0.03) =8.63m2
⑤	9.79-0.04 =9.75m2
⑥	9.28-(0.04+0.07+0.02+0.22) =8.93m2
⑦	9.30-0.02 =9.28m2
⑧	=9.81m2
⑨	9.30-(0.03+0.48+0.09+0.03+0.11) =8.56m2
⑩	9.28-(0.02+0.03+0.01+0.02) =9.20m2
⑪	9.79-(0.03+0.02+0.42+0.01+0.02+0.02) =9.27m2
⑫	9.28-0.03 =9.25m2
Σ A=109.99m2	

表面被覆工詳細図 S=1:10



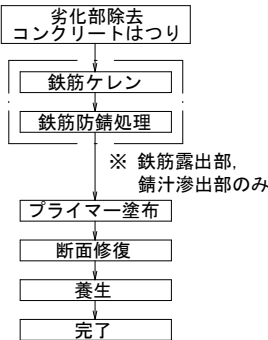
- <特記事項>
- ※1 既設コンクリートの塗布面は、下地処理を行い汚れや付着物を除去する。
 - ※2 清掃後、0.2mm以上のひび割れ等脆弱部が確認できた場合別途補修すること。
 - ※3 施工時は周囲に飛散しないよう、作業完了後(24時間)は降雨にさらされないよう養生を行う。
 - ※4 詳細寸法等は現地再検測の上決定すること。

断面修復工詳細図 S=1:10



- <特記事項>
- ※1 脆弱部撤去工(はつり取り)について、健全部に損傷を与えないよう周囲に深さ1cm程度の切断目地を入れ、鉄筋露出部は鉄筋背面までとし、それ以外は表面劣化部の除去とする。
 - ※2 断面修復工の材料は『ポリマーセメントモルタル』とし、「表面保護工法設計施工指針(案) [工法別マニュアル編]平成17年土木学会」に示す断面修復材の規格を満足するものとする。
 - ※3 鉄筋露出部については、防錆処理等を施すこと。
 - ※4 詳細寸法等は現地再検測の上決定すること。

断面修復工フロー

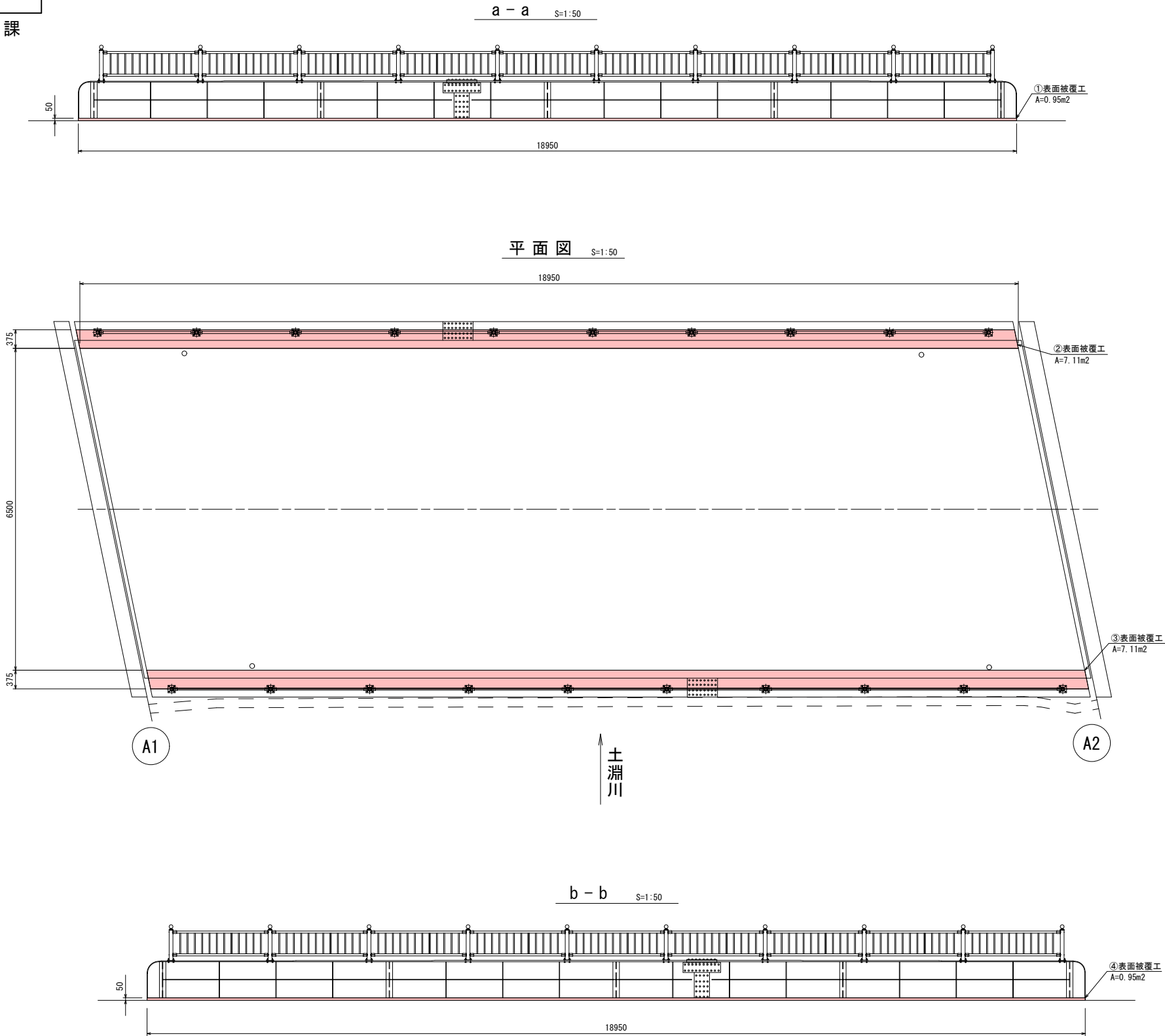


(単位・・・面積：m2、それ以外：m)

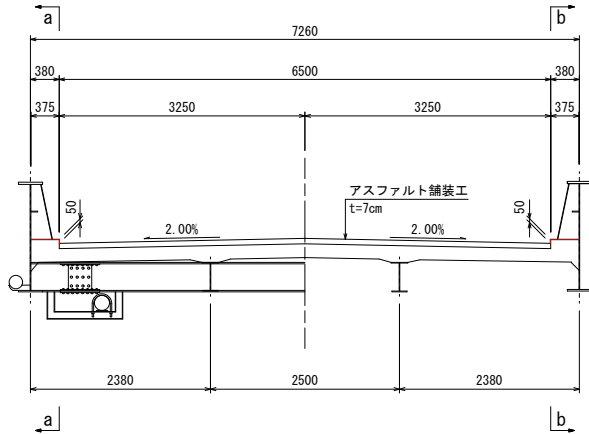
年 度	令 和 7 年 度
工 事 名	令和6年度 月見橋橋梁補修工事
路 線 名	市道 八幡宮線
施工箇所	弘前市大字 北横町外 地内
図面名称	地覆補修工図
縮 尺	図 示
図面番号	1 3 葉 7

弘 前 市 建 設 部 土 木 課

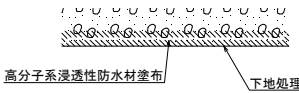
月見橋 地覆補修工図



断面図 S=1:50



表面被覆工詳細図 S=1:10



<特記事項>

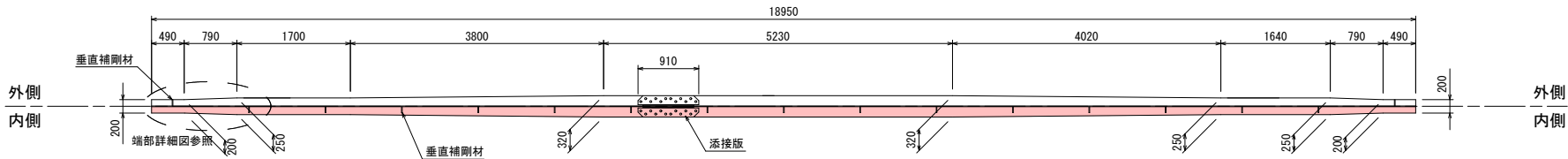
- ※1 既設コンクリートの塗布面は、下地処理を行い汚れや付着物を除去する。
- ※2 清掃後、0.2mm以上のひび割れ等脆弱部が確認できた場合別途補修すること。
- ※3 施工時は周囲に飛散しないよう、作業完了後(24時間)は降雨にさらされないよう養生を行う。
- ※4 詳細寸法等は現地再検測の上決定すること。

年 度	令 和 7 年 度
工 事 名	令和6年度 月見橋橋梁補修工事
路 線 名	市道 八幡宮線
施工箇所	弘前市大字 北横町外 地内
図面名称	主桁補修工図
縮 尺	図 示
図面番号	1 3 葉 8

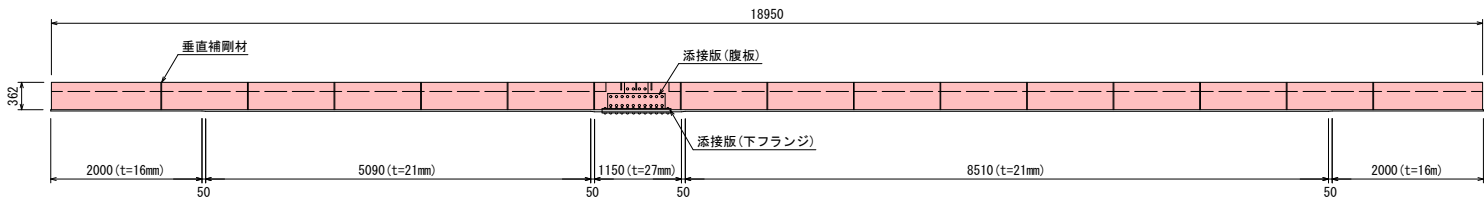
弘 前 市 建 設 部 土 木 課

月見橋 主桁補修工図 (橋梁塗装工)

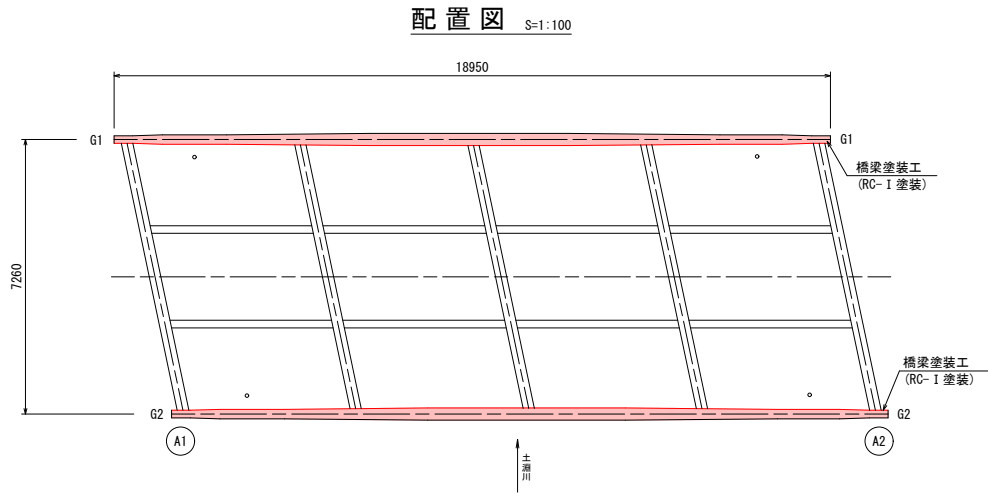
下フランジ平面図 (G1, G2) S=1:50



腹板側面図 (内側) S=1:50

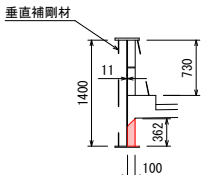


下フランジエッジ処理工詳細図



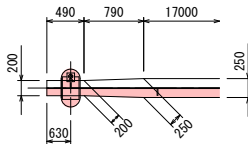
鋼部材詳細図 S=1:50

主桁・垂直補剛材

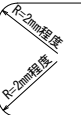
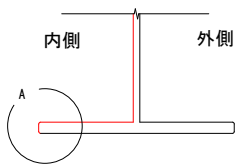


垂直補剛材1枚当たり A=0.03m² (両面)
計 N=15枚

端部詳細図



A部詳細



※：主桁は、2R程度のR加工処理を行う。

注意事項 既存塗膜に鉛の含有が確認されているため法令等を遵守する。

Rc-I 塗装系 (スプレー)^{※1}

塗装工程	塗 料 名	使用量 (g/m ²)	塗装間隔
素地調整	1種相当 (プラスト工法) ^{※3}		4時間以内
防食下地	有機ジンクリッチペイント	600	1日～10日 ^{※2}
下 塗	弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料下塗	240	1日～10日
下 塗	弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料下塗	240	1日～10日
中 塗	弱溶剤形ふっ素樹脂塗料用中塗	170	1日～10日
上 塗	弱溶剤形ふっ素樹脂塗料上塗	140	

※1：原則はスプレー塗装とするが、発注者との協議の上で、はけ、ローラーに変更もできる。変更した際の各使用量については『「鋼道路橋防食便覧」表-11.5.5 各塗料の標準使用量と標準膜厚』による。

※2：現場の施工条件に応じて塗装間隔を別途取り決める場合もある。

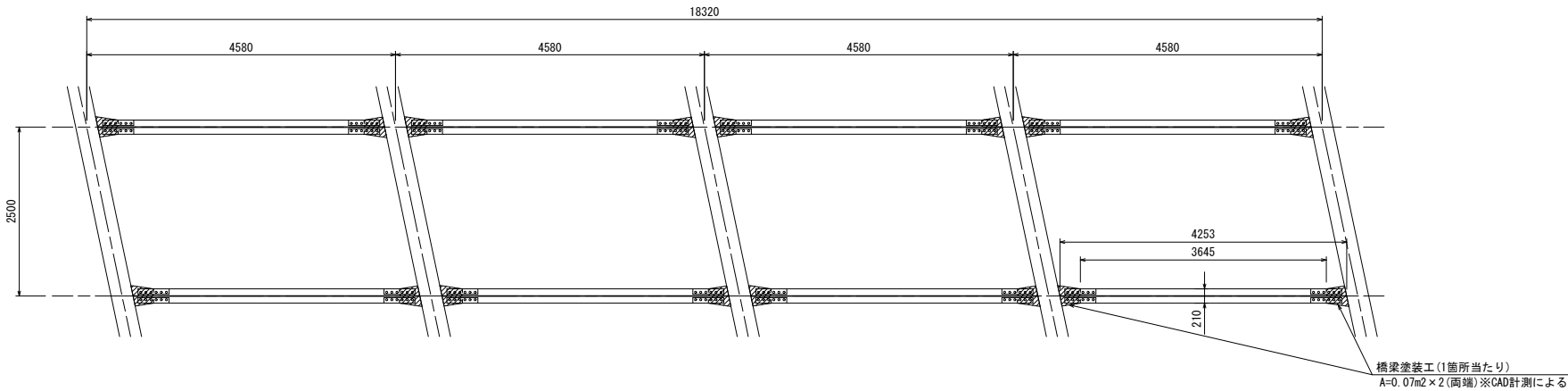
※3：既存塗膜の除去は、プラスト工法又は動力工具等により素地調整程度1種相当を確保するものとし除せし度はISO Sa2 1/2とする。(準拠図書「鋼道路橋防食便覧」)
プラスト作業時は、塗膜片等が外部に飛散しないよう防護を行い、労働安全衛生法ほか関係法令を遵守し環境保全と作業環境および安全確保と騒音に配慮した上で、適正に作業を行うこと。

年 度	令 和 7 年 度
工 事 名	令和6年度 月見橋橋梁補修工事
路 線 名	市道 八幡宮線
施工箇所	弘前市大字 北横町外 地内
図面名称	縦桁補修工図
縮 尺	図 示
図面番号	1 3 葉 1 0

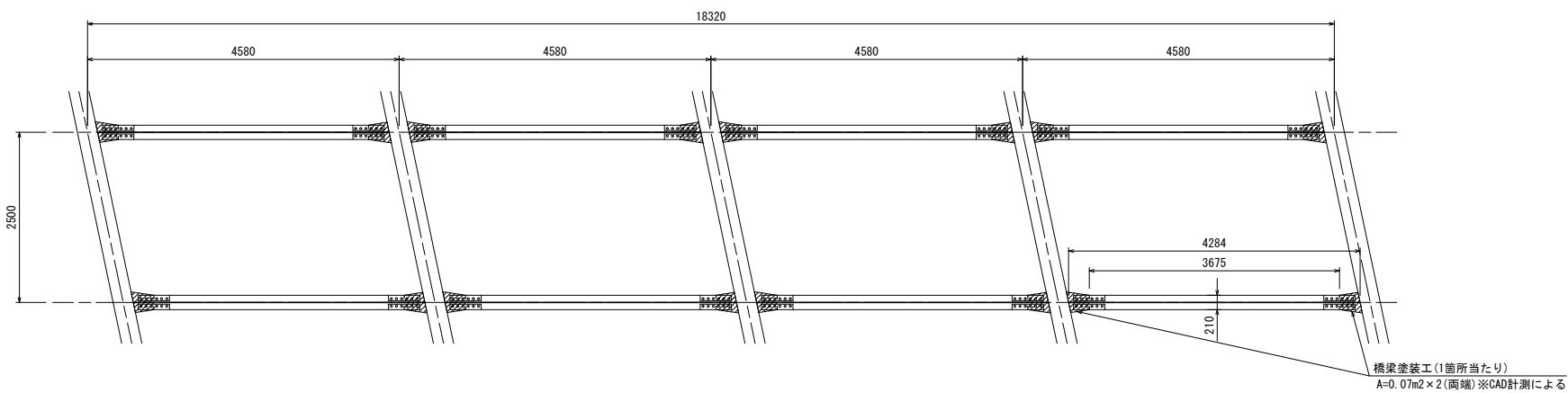
弘 前 市 建 設 部 土 木 課

月見橋 縦桁補修工図 (橋梁塗装工)

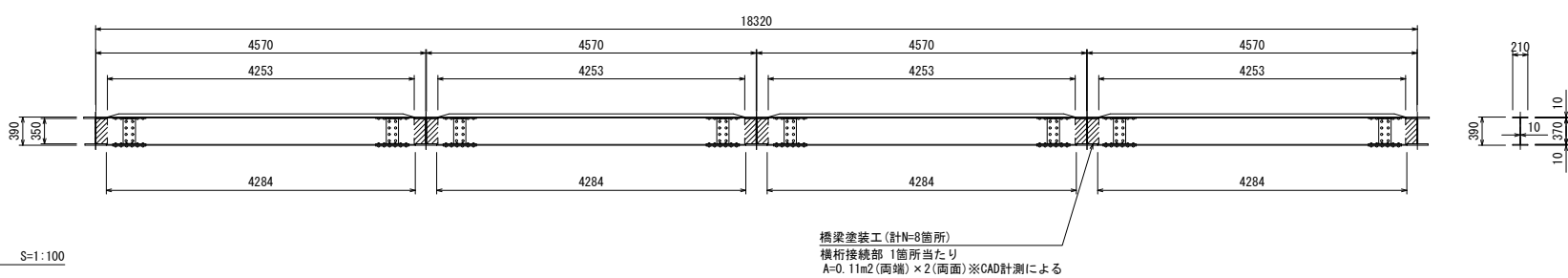
上フランジ平面図 S=1:50



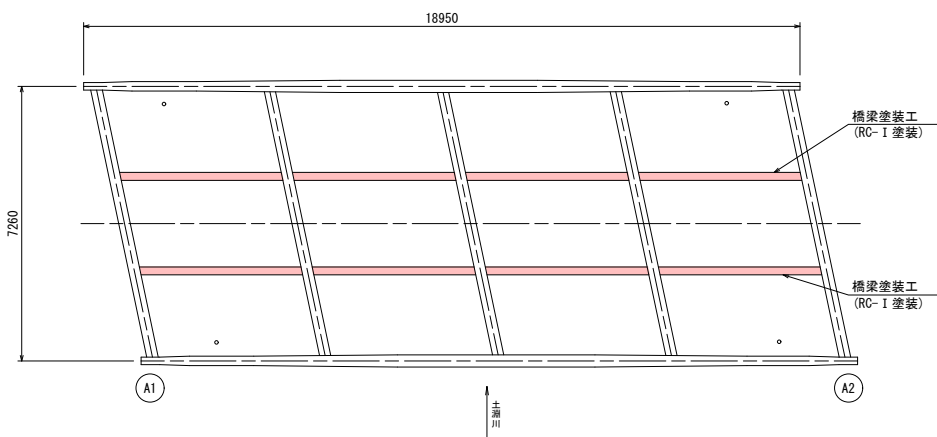
下フランジ平面図 S=1:50



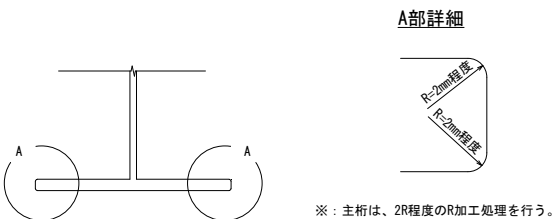
腹板側面図 S=1:50



配置図 S=1:100



下フランジエッジ処理工詳細図



注意事項	既存塗膜に鉛の含有が確認されているため法令等を遵守する。
------	------------------------------

Rc-I 塗装系 (スプレー)^{※1}

塗装工程	塗 料 名	使用量 (g/m ²)	塗装間隔
素地調整	1種相当 (プラスト工法) ^{※3}		4時間以内
防食下地	有機ジンクリッチペイント	600	1日～10日 ^{※2}
下 塗	弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料下塗	240	1日～10日
下 塗	弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料下塗	240	1日～10日
中 塗	弱溶剤形ふっ素樹脂塗料用中塗	170	1日～10日
上 塗	弱溶剤形ふっ素樹脂塗料上塗	140	

※1：原則はスプレー塗装とするが、発注者との協議の上で、はけ、ローラーに変更もできる。変更した際の各使用量については『「鋼道路橋防食便覧」表-11.5.5 各塗料の標準使用量と標準膜厚』による。

※2：現場の施工条件に応じて塗装間隔を別途取り決める場合もある。

※3：既存塗膜の除去は、プラスト工法又は動力工具等により素地調整程度1種相当を確保するものとし除せい度はISO Sa2 1/2とする。（準拠図書「鋼道路橋防食便覧」）
プラスト作業時は、塗膜片等が外部に飛散しないよう防護を行い、労働安全衛生法ほか関係法令を遵守し環境保全と作業環境および安全確保と騒音に配慮した上で、適正に作業を行うこと。

年 度	令 和 7 年 度
工 事 名	令和6年度 月見橋橋梁補修工事
路 線 名	市道 八幡宮線
施工箇所	弘前市大字 北横町外 地内
図面名称	下部工補修工図(1/2)
縮 尺	図 示
図面番号	1 3 葉 1 1

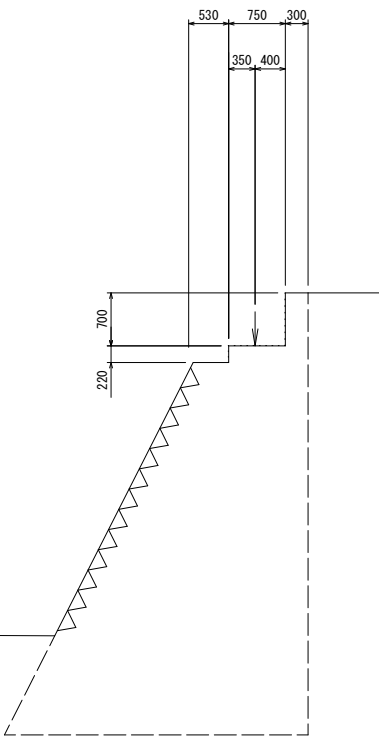
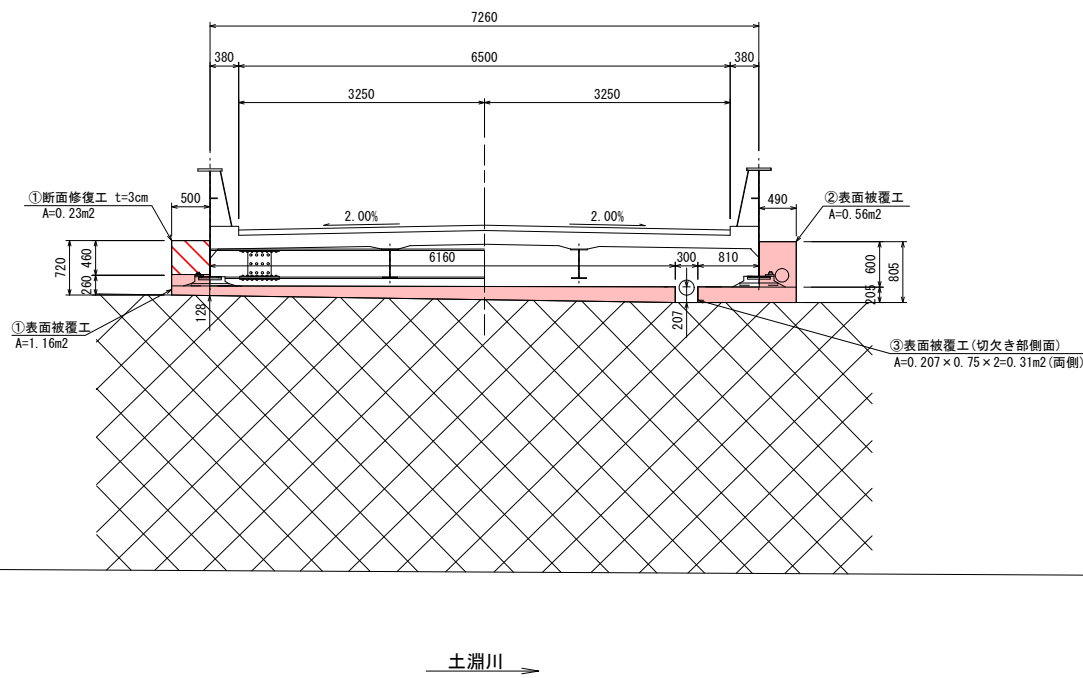
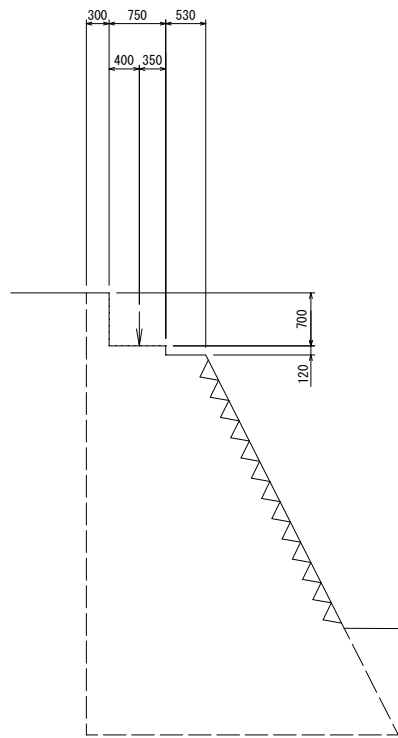
月見橋 下部工補修工図(1/2)

A1橋台 S=1:50

正面図

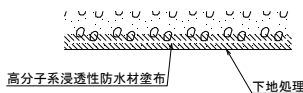
上流側側面図

下流側側面図



表面被覆工詳細図

S=1:10



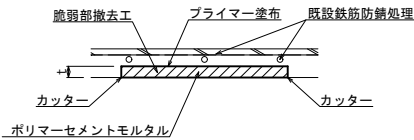
<特記事項>

- ※1 既設コンクリートの塗布面は、下地処理を行い汚れや付着物を除去する。
- ※2 清掃後、0.2mm以上のひび割れ等脆弱部が確認できた場合別途補修すること。
- ※3 施工時は周囲に飛散しないよう、作業完了後(24時間)は降雨にさらされないよう養生を行う。
- ※4 詳細寸法等は現地再検測の上決定すること。

断面修復工詳細図

S=1:10

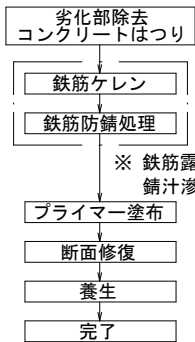
左官工法



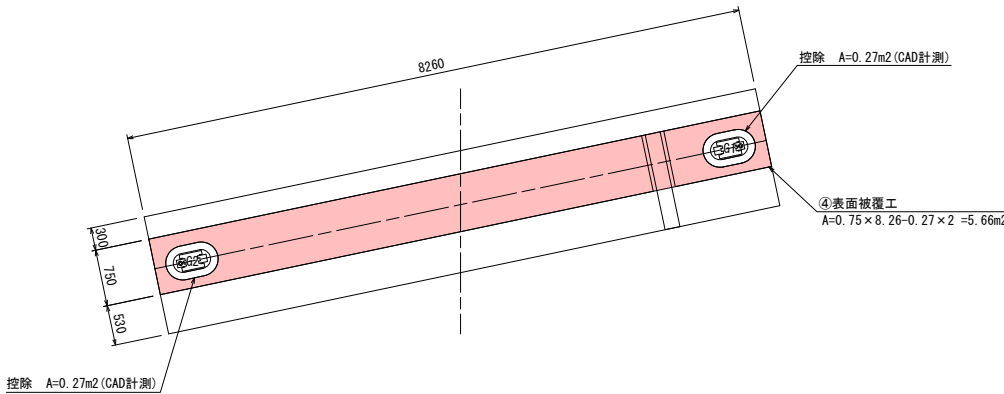
<特記事項>

- ※1 脆弱部撤去工(はつり取り)について、健全部に損傷を与えないよう周囲に深さ1cm程度の切断目地を入れ、鉄筋発錆部は鉄筋背面までとし、それ以外は表面劣化部の除去とする。
- ※2 断面修復工の材質は『ポリマーセメントモルタル』とし、「表面保護工法設計施工指針(案)〔工法別マニュアル編〕平成17年土木学会」に示す断面修復材の規格を満足するものとする。
- ※3 鉄筋露出部については、防錆処理等を施すこと。
- ※4 詳細寸法等は現地再検測の上決定すること。

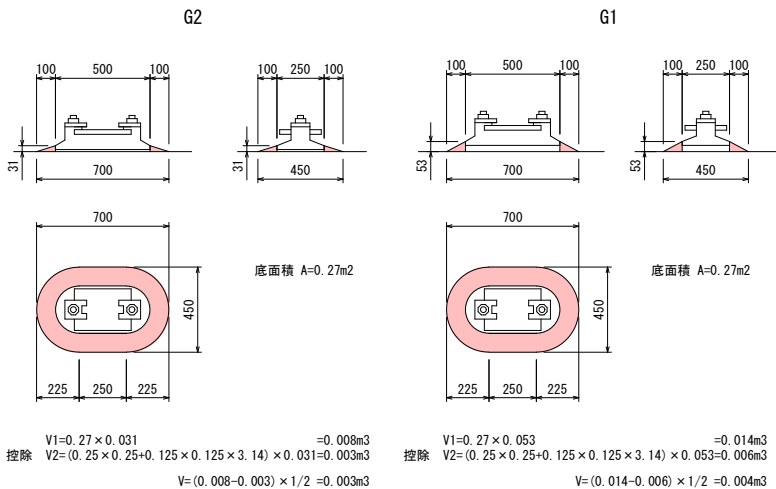
断面修復工フロー



平面図 S=1:50



沓座補修図 S=1:20



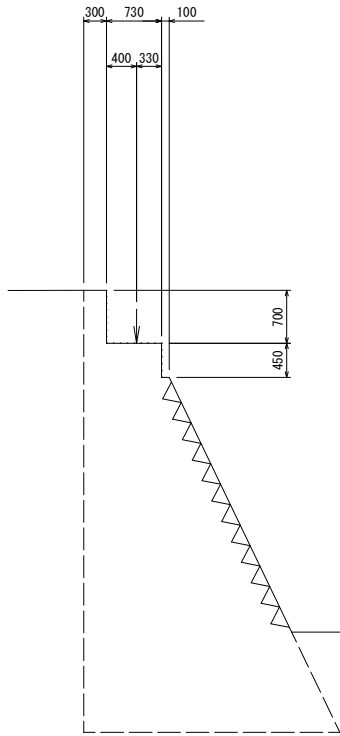
年 度	令 和 7 年 度
工 事 名	令和6年度 月見橋橋梁補修工事
路 線 名	市道 八幡宮線
施工箇所	弘前市大字 北横町外 地内
図面名称	下部工補修図(2/2)
縮 尺	図 示
図面番号	1 3 葉 1 2

月見橋 下部工補修図(2/2)

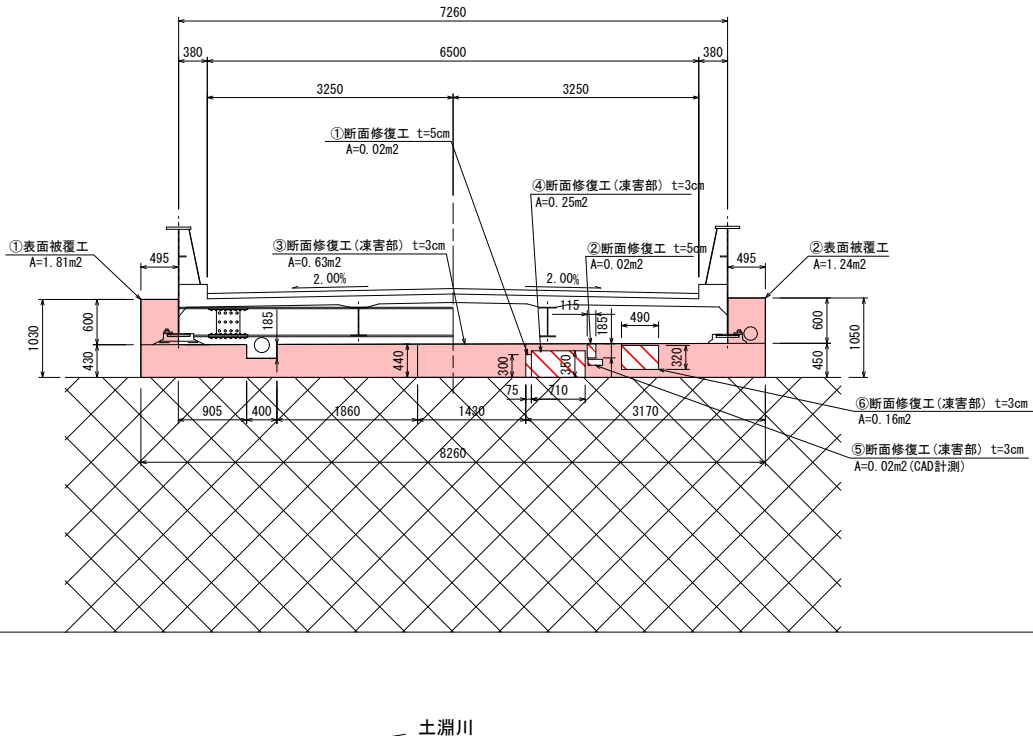
A 2 橋 台 S=1:50

弘 前 市 建 設 部 土 木 課

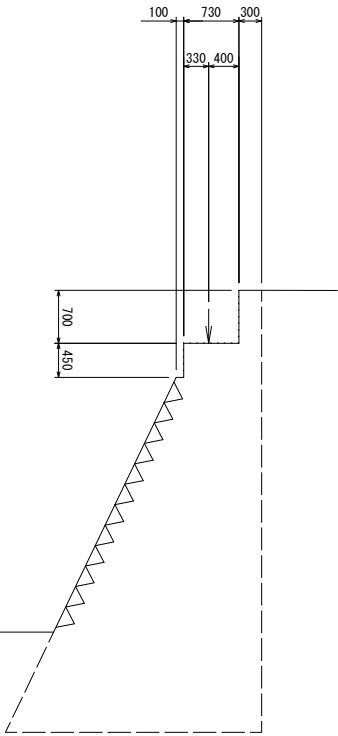
下流側側面図



正 面 図

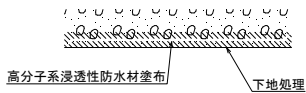


上流側側面図



表面被覆工詳細図

S=1:10



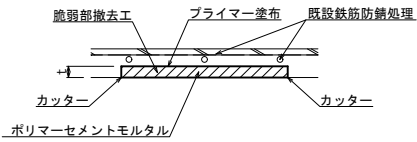
<特記事項>

- ※1 既設コンクリートの塗布面は、下地処理を行い汚れや付着物を除去する。
- ※2 清掃後、0.2 mm以上のひび割れ等脆弱部が確認できた場合別途補修すること。
- ※3 施工時は周囲に飛散しないよう、作業完了後(24時間)は降雨にさらされないよう養生を行う。
- ※4 詳細寸法等は現地再検測の上決定すること。

断面修復工詳細図

S=1:10

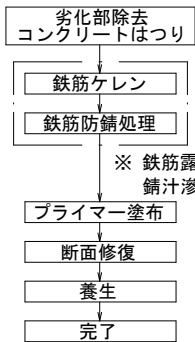
左官工法



<特記事項>

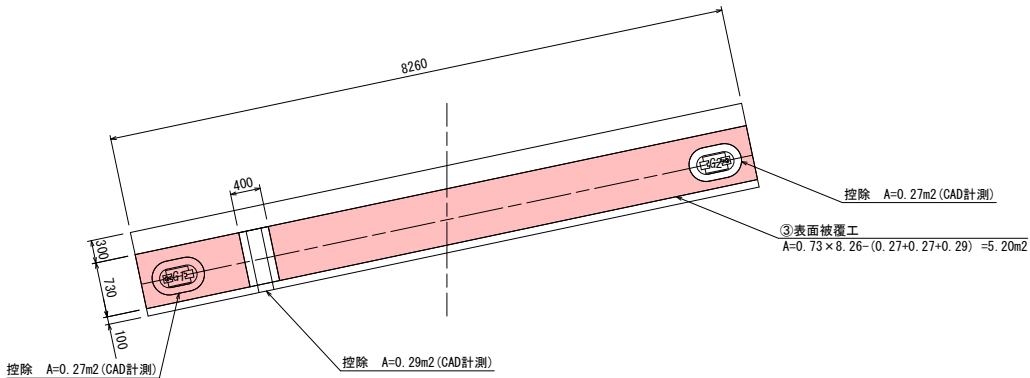
- ※1 脆弱部撤去工(はつり取り)について、健全部に損傷を与えないよう周囲に深さ1cm程度の切断目地を入れ、鉄筋露錆部は鉄筋背面までとし、それ以外は表面劣化部の除去とする。
- ※2 断面修復工の材質は『ポリマーセメントモルタル』とし、「表面保護工法設計施工指針(案)〔工法別マニュアル編〕平成17年土木学会」に示す断面修復材の規格を満足するものとする。
- ※3 鉄筋露出部については、防錆処理等を施すこと。
- ※4 詳細寸法等は現地再検測の上決定すること。

断面修復工フロー



平 面 図

S=1:50

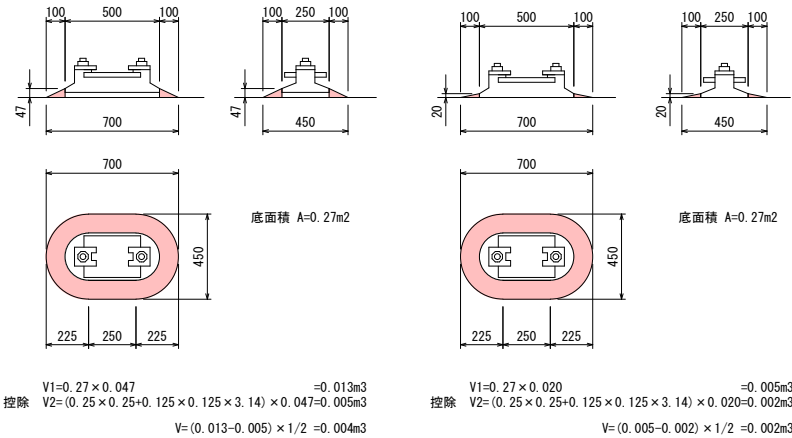


沓座補修図

S=1:20

G1

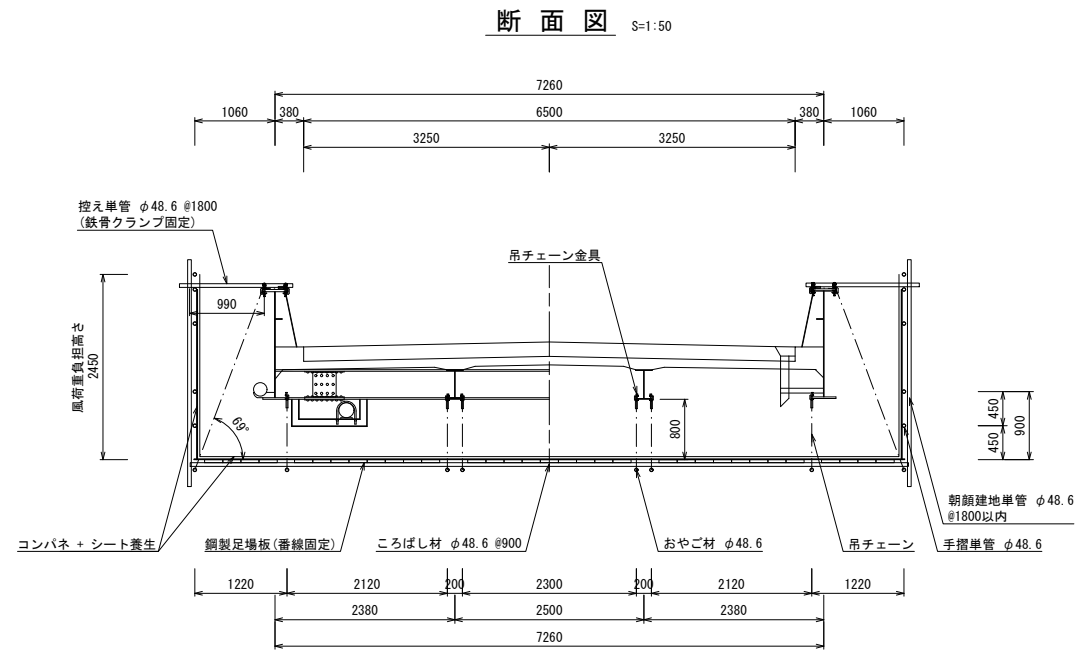
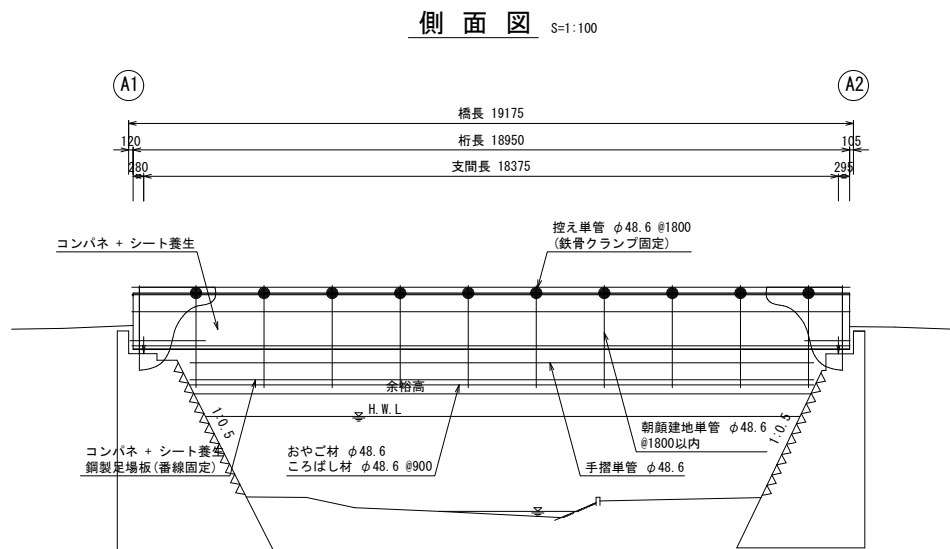
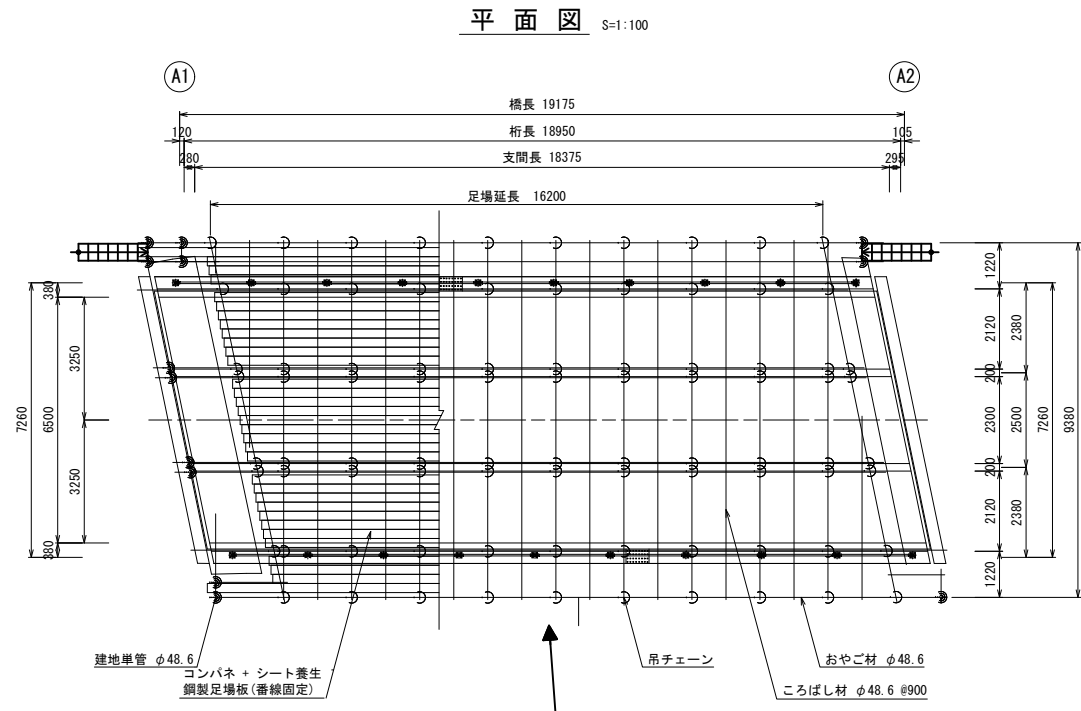
G2



年 度	令 和 7 年 度
工 事 名	令和6年度 月見橋橋梁補修工事
路 線 名	市道 八幡宮線
施工箇所	弘前市大字 北横町外 地内
図面名称	橋梁足場工参考図
縮 尺	図 示
図面番号	1 3 葉 1 3

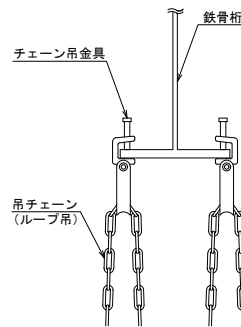
弘 前 市 建 設 部 土 木 課

月見橋 橋梁足場工参考図



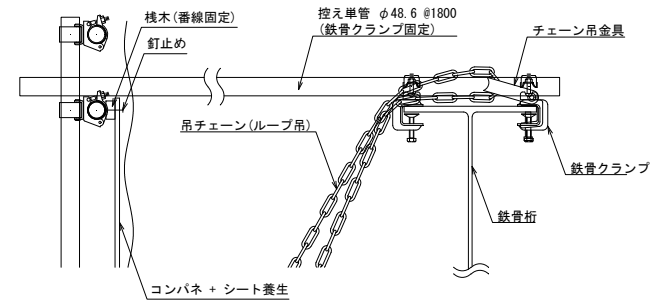
足場チェーン吊金具詳細図

S=1:10



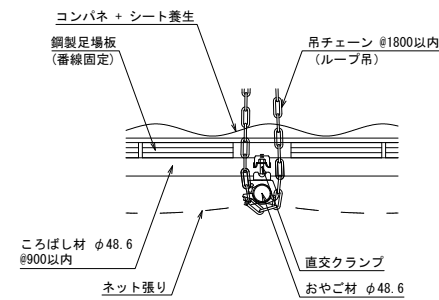
端部斜め吊チェーン詳細図

S=1:50



足場チェーン吊り部 詳細図

S=1:10



吊足場端部 詳細図

S=1:10

